キリスト教保育

2024年11月1日発行（毎月1回1日発行）第668号

年主題
さあ、漕ぎだそう
奏でよう

論説
遊びの大切さの再確認と子ども理解
久保健太

連載
アタッチメント
遠藤利彦

2024 NOV. 11

神の造られたものは、みな良いものであって、感謝して受けるなら、何ひとつ捨てるべきものはない。　聖書 口語訳聖書・テモテへの第一の手紙4章4節

今日、感謝の心が欠乏している時代といえる。以前とは比べられぬほど、様々な物の豊かさの中で、かえって心が貧しくなり、感謝が失われているのではないだろうか。心の豊かさとは、人のことを真剣に考えることのできる心と素直に感謝できる心ではないだろうか。「ありがとう」と言える子どもは、素晴らしいのである。

「神の造られたものは、みな良いものである」この世界とそこにあるすべてのものは、主のものであり、神によって造られたものであるという。「みな良いものである」ということは、私たちにとって、すべてが完全というのではなく、神の祝福の中にあるということなのだ。天地創造の初め、神はすべてのものを良しとされた（創世記1:31等）。神に造られたもの－従って、神から与えられたものは、すべて神の祝福の中にあるのだ。

「感謝して受けるなら、何ひとつ捨てるべきものはない」普通、人間の順序は、与えられてから－、結果を見てから－、感謝するのである。しかし、感謝して受けるとは、どういうことか。それらのものが神の賜物であり、神の恵みであることを思い起こしつつ、受けることなのだ。従って、信仰の順序は、まず、感謝から始まるのである。真の祈りは、はじめに感謝をもってなされる。

神の恵みに対する人間の応答－それが感謝であり、奉仕である。（新約聖書で最も多く用いられる感謝という言葉、ギリシャ語のユーカリスティアは、カリス（神の恩恵）からくる）。この祝福に満たされている私たちの生活はどうであろうか。もしそれが、どっちつかずの曖昧さをもっているなら、この根本的な秩序が確立していないからではないだろうか。例えば、一週間の園の働きや勤労の生活を終えて、締めくくりに日曜日の礼拝を守るのではない。まず、日曜日の礼拝から、み言葉に支えられる一週間の生活が始められるのだ。私たちの献金も、祈願成就のお礼ではなく、全生活の感謝と献身のしるしなのである。

旧約聖書と新約聖書を貫いて、感謝は主なる神にささげられるべきものであった。ただ良いものを感謝するのではなく、与えたもう神に感謝するのである。新約聖書においては、神の恵みへの感謝は、本質的にイエス・キリストを中心としたものである。キリストによって、キリストと共に、感謝するものであることを忘れてはならない。そこにこそ、すべてのことについて感謝して生きる、力強い生活が築きあげられていくのである。

（田井中　純作・執筆　時・日本キリスト教団倉敷教会牧師）
1975年『キリスト教保育』誌11月号より

新共同訳ではテモテへの手紙一4:4「というのは、神がお造りになったものは、すべて良いものであり、感謝してうけるならば、何一つ捨てるものはないからです。」です。一部省略、要約してあります。

キリスト教保育

第668号11月号

年主題

さあ、漕ぎだそう
奏でよう

幼子とともにキリストへ　2
目次　3
〈巻頭言〉浮世絵に見る江戸時代の子どもたち　吉本直子　4
〈論説〉遊びの大切さの再確認と子ども理解　久保健太　6
〈小論〉好きなことから木育を　伊藤龍二　14
図書紹介　木村智香子　平澤　昇　19
聖書に聞く・お話　月下星志　20

【カリキュラム】
11月　月のねがい表　23
心にとめて　井奥千恵　24
実践報告　一粒園認定こども園　26
実践からの学び　海野美代子　32
子どもと賛美するために　33
心にとめて　小出馨　34
実践報告　平安女学院大学附属こども園　36
実践からの学び　相川徳孝　41
私たちの園では…　あいのそのこども園　42

絵本のとびら　岸川由美　43
私たちの園では　赤坂洋子　44
〈連載〉アタッチメント　遠藤利彦　46
〈連載〉日々、子どもたちから学んでいること　斎藤惇夫　48
目福口福耳福　久保小枝子　51
子どもの祈り　52
礼拝のお話　今井世都　53
風　柴田俊　63
編集子　菅原陽子　64
連盟だより

表紙絵　田中槙子
カット　中畝治子　小鯛みのり　藤安初枝
松成真理子　金井ユリ